

## 2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月9日

会社名 日本貨物鉄道株式会社 URL <http://www.jrfreight.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼社長執行役員 (氏名) 犬飼 新  
 問合せ先責任者 (役職名) 総務部広報室長 (氏名) 市川 寛 TEL 050-2017-4180

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	45,043	△1.4	102	141.7	△33	—	205	—
2022年3月期第1四半期	45,699	3.4	42	—	△55	—	△132	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 218百万円 (—%) 2022年3月期第1四半期 △59百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	539.96	—
2022年3月期第1四半期	△347.79	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	426,614	100,411	22.3
2022年3月期	432,591	100,203	21.9

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 95,013百万円 2022年3月期 94,834百万円

### 2. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	198,100	6.1	3,500	135.7	2,900	946.2	300	—	789.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期1Q	380,000株	2022年3月期	380,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	一株	2022年3月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期1Q	380,000株	2022年3月期1Q	380,000株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想については、四半期決算短信（添付資料）5ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	4
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	4
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	7
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	9
四半期連結損益計算書 .....	9
四半期連結包括利益計算書 .....	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(セグメント情報等) .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込む経済活動の回復を図るべく、政府主導による行動制限の緩和等の経済対策が実行されておりますが、ウクライナ情勢の深刻化に起因する原油価格や資源価格の上昇や半導体の供給不足による生産活動の停滞など経済情勢は依然として不透明な状況です。

こうした状況の中、当社グループにおいては「JR貨物グループ長期ビジョン2030」や「JR貨物グループ中期経営計画2023」のもと、鉄道ロジスティクス事業では貨物鉄道事業の役割発揮とさらなる収益性の向上、総合物流企業グループへの進化、不動産事業では利益拡大等の取組みを進めました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の営業収益は前年同期比1.4%減の450億円、営業利益は前年同期比141.7%増の1億円、経常損失は0億円（前年同期は経常損失0億円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億円）となりました。

#### i) 鉄道ロジスティクス事業

鉄道事業を中心とする当社グループは、「安全は鉄道事業の存立基盤である」との認識のもと、鉄道輸送の商品力強化や信頼性向上に取り組むとともに、収支改善に向けた取組みの継続・強化を実施しております。

しかしながら、2021年12月28日に発生した山陽線瀬野駅～八本松駅間における貨物列車の脱線事故により同線を運行する列車に運休や大幅な遅延等が発生し、お客様をはじめ、関係する方々に多大なご迷惑をおかけしたことを改めてお詫び申し上げます。この事故に基づく保安監査において、4月28日に国土交通省より改善指示を受けており、この指示に対し当社としましては、「利用運送事業者が偏積でないことを保証する仕組みづくり」、「偏積でないことを当社が確認する仕組みづくり」、及び「列車防護および転動防止の取扱いの確実な実施」の改善措置を講じ、5月31日に国土交通省へ報告しているところです。今回の脱線事故を極めて重大な事故と受け止め、改善措置を着実に実行するとともに、利用運送事業者等、貨物鉄道輸送に関わる事業者とさらなる連携を図り、安全管理体制の強化に取組み、輸送の安全確保に万全を期してまいります。

輸送サービスにおいては、2022年3月で設定した関東～関西間のフォワーダー（利用運送事業者）向けの新しいブロックトレイン「フォワーダーズブロックトレイン」を、3月14日より運行開始しました。これら輸送サービスの提供により当社グループは、貨物鉄道の優れた環境特性や労働生産性を活かし、「JR貨物グループ長期ビジョン2030」で掲げた「物流生産性の向上」「グリーン社会の実現」という価値の提供に取り組んでまいります。

当第1四半期連結累計期間における輸送量につきまして、コンテナは新型コロナウイルス感染症に伴う需要低迷等を受け、積合せ貨物、家電・情報機器を除く品目で前年を下回りました。品目別では半導体不足及び海外からの部品調達難により各社が生産調整を行った結果、自動車部品が減送となったほか、農産品・青果物は、玉葱が前年夏の干ばつによる作柄不良、九州地区では流通量減に伴い長距離輸送の需要が減少したことにより低調に推移しました。一方、積合せ貨物は、2021年10月からのブロックトレイン運転開始等により増送となったほか、家電・情報機器は、エアコンの需要回復や一部顧客のモデルシフトの推進等により前年を上回りました。この結果、コンテナ全体では前年比95.7%となりました。車扱は、石油が新型コロナウイルス感染症の影響緩和によりガソリン需要が増えたことから前年を上回り、車扱全体では前年比101.7%となりました。コンテナ・車扱の輸送量合計では前年比97.2%となりました。

経費面では、安全の確立、安定輸送の確保、輸送品質の維持等の事業継続に必要な経費は着実に執行しつつ、会社の持続的成長に向けて、維持・更新投資に加え、成長・戦略投資も計画通りに進めました。同時に収入減に伴うオペレーションコストの削減に取り組むほか、ウクライナ情勢の長期化に伴う原油高騰や物価高騰に起因するコスト増を受け不要不急の工事・施策の精査を行うなど、さらなる経費圧縮に努めました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の営業収益は前年同期比1.7%減の403億円、営業損失は26億円（前年同期は営業損失26億円）となりました。

#### ii) 不動産事業

不動産事業では、賃貸マンション事業で2022年2月に賃貸開始したフレシア経堂が順調に稼働しているほか、温浴事業がコロナ禍の影響で実施していた時短営業を通常営業に戻したことにより増収となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の営業収益は前年同期比0.1%増の50億円、営業利益は前年同期比0.2%増の25億円となりました。

#### iii) その他

その他では、リース料収入の増により営業収益は前年同期比8.1%増の10億円となりましたが、利益率の高いリース満了品の売却が減少したことにより営業利益は前年同期比36.1%減の0億円となりました。

## (2) 財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産額は4,266億円となり、前連結会計年度末と比較し59億円減少しました。これは主に、現金及び預金の減少によるものです。

負債総額は3,262億円となり、前連結会計年度末と比較し61億円減少しました。これは主に、未払金の減少によるものです。また、長期借入金残高は、前連結会計年度末に比べ2億円増の1,809億円となりました。

純資産総額は1,004億円となり、前連結会計年度末と比較し2億円増加しました。これは主に、利益剰余金の増加によるものです。

設備投資のための資金については、「日本国有鉄道清算事業団の債務等の処理に関する法律」に基づく「設備投資等に係る無利子貸付」などの国からの支援を積極的に活用しつつ将来の経営基盤強化に資する設備投資を進めております。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

わが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の停滞から回復するため、政府主導による行動制限の緩和等の経済対策が実施されているところですが、足元で第7波により感染が急拡大しており、さらには、甚大な自然災害やウクライナ情勢の深刻化に起因する原油価格や資源価格の上昇、半導体の供給不足による生産活動の停滞などにより、先行き不透明な状況が続くことが想定されます。

物流業界では、コロナ禍により社会インフラとしての物流の重要性が広く認識されるとともに、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする「カーボンニュートラル」が政府の政策目標として示されるなど、社会にとって、また企業がESG経営やSDGsに向けた取組みを進める上で、環境特性や労働生産性に優れた貨物鉄道輸送が果たすべき役割はますます大きくなっています。当社グループにおいても、「JR貨物長期ビジョン2030」に掲げる社会に提供する価値の一つとして「グリーン社会の実現」に取り組んでおりますが、2022年4月に鉄道事業基盤の強化とSDGsの実現を両立する調達を目指すことを目的に「JR貨物グループサステナビリティ調達方針」を策定しました。2022年7月には環境長期目標「JR貨物グループカーボンニュートラル2050」を策定し、2050年度にCO2排出量の実質ゼロを目指すことといたしました。今後、貨物鉄道の環境特性を更に高めた輸送サービスを提供することによりお客様の物流におけるCO2削減に貢献することを通じ、これまで以上に貨物鉄道をご利用いただけるよう取り組むを進めることで、物流全体の脱炭素化及び政府の定める2050年カーボンニュートラルをはじめとしたグリーン社会の実現に貢献します。

鉄道ロジスティクス事業においては、安全面では2021年12月28日に発生した山陽線瀬野駅～八本松駅間における貨物列車の脱線事故への対策として、5月に国土交通省へ報告した改善措置を確実に実施してまいります。営業面では2024年トラックドライバーの労働時間規制強化への対応やカーボンニュートラル・SDGs取組み企業に対してソリューション提案を行うなどお客様に選択されるための商品づくりと増送に向けた営業活動の強化・充実を図ることを通じて収入の確保に努めてまいります。さらに、激甚化・多発化する災害への対応として鉄道インフラなどの強靱化とBCP対応力の強化に取り組んでまいります。

また、当社グループが持つ貨物鉄道輸送の全国ネットワークと不動産事業で培ったノウハウを活かした、総合物流企業グループへの進化への取組みでは、マルチテナント型物流施設「東京レールゲートEAST」が2022年7月に竣工しました。2020年3月に先行稼働した「東京レールゲートWEST」、2022年6月に営業開始した「DPL札幌レールゲート」と併せて、JR貨物グループ各社が持つ物流アセットと結合させることで、ご入居テナント様に対する集荷を始めとして、配達・保管・荷役・梱包・流通加工等の物流関連事業まで一貫した総合物流サービスのご提案が可能となりました。このような環境特性と労働生産性に優れた貨物鉄道輸送を活かした総合物流事業を推進することで、「JR貨物グループ長期ビジョン2030」で掲げた4つの価値の一つである「物流生産性の向上」を目指すとともに鉄道事業、JR貨物グループ全体の収益力の最大化を図ります。その実現のために必要な成長・戦略分野への投資も積極的に推進するとともに、「安全・安心な物流サービス」の提供に不可欠な車両や設備の修繕、老朽設備取替も着実に進めてまいります。

不動産事業では、自社用地を活用した新規開発に加え、外部物件の取得による賃貸マンション事業を引き続き重点施策として進め、不動産事業の安定した成長軌道の確立を目指します。

2022年3月に国土交通省により設置された「今後の鉄道物流のあり方に関する検討会」では有識者、関係団体、鉄道事業者及び関係省庁で物流分野における貨物鉄道の利便性の向上などについて議論され、今般、中間とりまとめが行われました。この提言内容を踏まえ、貨物鉄道輸送の特性を十分に活かした役割を発揮することで輸送量の拡大を図り、物流における諸課題の解決に貢献してまいります。また、長期ビジョンで掲げる4つの価値を社会に提供する取組みをグループ一丸となって強力かつスピーディに進めてまいります。

以上の内容を踏まえた現時点での業績見通しは次のとおりです。

通期連結業績見通し

営業収益	1,981億円 (前年度比 +6.1%)
営業利益	35億円 (前年度比 +135.7%)
経常利益	29億円 (前年度比 +946.2%)
親会社株主に帰属する当期純利益	3億円 (前年度比 —)

(参考) 個別業績見通し

営業収益	1,616億円 (前年度比 +6.8%)
営業利益	21億円 (前年度比 —)
経常利益	13億円 (前年度比 —)
当期純損失	5億円 (前年度比 —)

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	32,407	27,412
受取手形及び売掛金	9,467	8,278
未収運賃	8,459	7,289
棚卸資産	5,262	6,511
未収入金	7,074	3,515
未収還付法人税等	27	8
未収消費税等	1,468	957
その他	8,462	11,776
貸倒引当金	△11	△11
流動資産合計	72,617	65,739
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	148,129	146,612
機械装置及び運搬具（純額）	114,926	115,038
土地	37,234	37,236
建設仮勘定	20,403	22,187
その他（純額）	9,225	8,866
有形固定資産合計	329,918	329,942
無形固定資産		
無形固定資産	3,064	2,906
投資その他の資産		
投資有価証券	14,462	14,573
繰延税金資産	6,275	6,983
その他	6,319	6,535
貸倒引当金	△66	△66
投資その他の資産合計	26,990	28,026
固定資産合計	359,973	360,875
資産合計	432,591	426,614

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,701	1,965
短期借入金	960	1,870
1年内返済予定の長期借入金	10,682	10,616
未払金	24,102	14,690
未払法人税等	901	1,056
未払消費税等	662	596
前受金	12,538	12,536
賞与引当金	4,699	3,162
環境対策引当金	889	815
その他	10,570	14,340
流動負債合計	67,708	61,650
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	169,999	170,303
繰延税金負債	4	5
退職給付に係る負債	38,895	39,179
役員退職慰労引当金	791	677
環境対策引当金	32	31
関係会社整理損失引当金	84	84
持分法適用に伴う負債	336	269
預り保証金	28,397	27,932
その他	6,137	6,068
固定負債合計	264,679	264,552
負債合計	332,387	326,203
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	19,000	19,000
資本剰余金	16,662	16,662
利益剰余金	54,496	54,701
株主資本合計	90,158	90,363
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	429	500
退職給付に係る調整累計額	4,245	4,148
その他の包括利益累計額合計	4,675	4,649
非支配株主持分	5,369	5,397
純資産合計	100,203	100,411
負債純資産合計	432,591	426,614

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
営業収益	45,699	45,043
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	41,449	40,985
販売費及び一般管理費	4,207	3,956
営業費合計	45,656	44,941
営業利益	42	102
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	66	74
持分法による投資利益	19	64
匿名組合投資利益	77	—
物品売却益	42	22
その他	63	45
営業外収益合計	270	208
営業外費用		
支払利息	328	312
匿名組合投資損失	35	13
その他	4	18
営業外費用合計	368	344
経常損失(△)	△55	△33
特別利益		
固定資産売却益	3	6
工事負担金等受入額	20	687
その他	—	133
特別利益合計	23	827
特別損失		
固定資産除却損	13	65
固定資産圧縮損	20	127
減損損失	—	13
環境対策費	9	65
その他	0	52
特別損失合計	43	326
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	△76	468
法人税、住民税及び事業税	852	921
法人税等調整額	△847	△696
法人税等合計	4	225
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△80	243
非支配株主に帰属する四半期純利益	51	37
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△)	△132	205

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△80	243
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△89	72
退職給付に係る調整額	112	△97
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	△0
その他の包括利益合計	20	△24
四半期包括利益	△59	218
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△108	179
非支配株主に係る四半期包括利益	49	39

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	鉄道ロジスティクス事業	不動産事業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
売上高						
外部顧客への売上高	40,930	4,649	119	45,699	—	45,699
セグメント間の内部 売上高又は振替高	83	419	814	1,316	△1,316	—
計	41,013	5,068	933	47,016	△1,316	45,699
セグメント利益 又は損失(△)	△2,647	2,582	103	38	3	42

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメント等であり、リース事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額3百万円には固定資産及び棚卸資産の未実現利益の消去額△49百万円、セグメント間取引消去53百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	鉄道ロジスティクス事業	不動産事業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
売上高						
外部顧客への売上高	40,216	4,736	90	45,043	—	45,043
セグメント間の内部 売上高又は振替高	85	336	917	1,339	△1,339	—
計	40,301	5,072	1,008	46,382	△1,339	45,043
セグメント利益 又は損失(△)	△2,602	2,588	66	52	50	102

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメント等であり、リース事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額50百万円には固定資産及び棚卸資産の未実現利益の消去額△17百万円、セグメント間取引消去67百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。